

走錨事故等防止対策【国土交通省】

施策概要

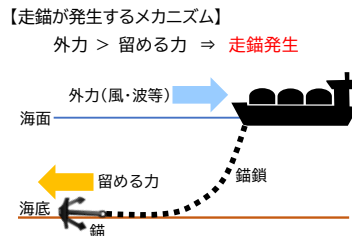
強風等の災害による走錨事故防止のため、臨海部施設周辺海域、特定港及び船舶がふくそうする海域等に監視カメラやレーダーを設置

効果

海域監視体制の強化を図り、走錨等に起因する重大事故を未然に防止

全国的な対策と効果

令和元年房総半島台風の強風等により、走錨(風などの船に働く外力が、錨が船を一定の場所に留める力より大きいとき、錨が海底をすべってしまうこと)した貨物船が横浜港南本牧はま道路に衝突し、通行止めになるなど、物流等に甚大な影響が生じたことから、臨海部施設周辺海域、特定港及び船舶がふくそうする海域等に監視カメラやレーダーを設置し、海域監視体制の強化を図り走錨等に起因する重大事故を未然に防止する。
※走錨が発生するメカニズムは右図を参照



【実施箇所の例】



発電所

大型タンカーバース

その他海上施設

【整備した機器の例】



監視カメラ

レーダー

整備を実施した箇所(～令和6年度末)

	3か年 緊急対策	5か年 加速化対策
合計	10	35

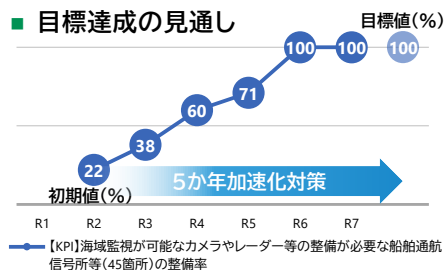
▶ 令和2年度以降、船舶の走錨等に起因する重大事故発生件数は0件

■ 予算額(国費)(加速化・深化分)

R3	R4	R5
1億円	-	3億円
R6	R7	累計
1億円	-	5億円

※ このほか、加速化・深化分以外の予算も措置されている

■ 目標達成の見通し



整備事例

監視カメラの整備により、走錨等に起因する重大事故を未然に防止する



国土交通省 海上保安庁



神奈川県横浜市



船舶交通安全基盤整備事業

■ 横浜港南本牧はま道路被害状況



令和元年房総半島台風時に、貨物船が道路に衝突し被害発生

■ 監視カメラの整備状況



事業費

0.48億円(うち5か年加速化対策(加速化・深化分)-億円)

事業の背景(地域の課題)

近年、台風等の自然災害が激甚化、頻発化する中、令和元年房総半島台風においては、強風等により貨物船が走錨したことにより、横浜港南本牧はま道路に衝突し通行止めになるなど、物流等に甚大な影響が生じました。

事業の内容

走錨事故等防止対策の一環として、横浜港南本牧はま道路周辺海域の監視体制を強化し、船舶の走錨等に起因する重大事故を未然に防止するため、横浜本牧ふ頭に監視カメラを整備しました。

【監視カメラで見た はま道路周辺海域の状況】



見込まれる効果

監視カメラを整備することにより、海域監視体制を強化し、走錨した船舶へ情報提供を早期に行うことで横浜港南本牧はま道路への船舶の衝突を回避することが期待できます。これに伴い、通行止めによる物流への甚大な影響を及ぼす事故を未然に防止することが見込まれます。

(1)	1	人命・財産の被害最小化	激甚化する風水害や切迫する大規模地震等への対策
(2)	2	交通・ライフラインの維持	インフラの老朽化対策
(1)	3	施策のデジタル化	国土強靱化に関する施策を効率的に進めるためのデジタル化等の推進
(2)		災害関連情報の高度化	